

密度の高い果肉に甘味がいっぱい！「ネーブル」



1. 果実の出荷時期と特長

出荷時期	1月中旬から4月中旬まで
特長	果実の中にもう一つ小型の果実が生成され、その一部が顔を出しヘソ（英語：navel）となります。ぎっしり詰まった果肉には濃厚な甘味があふれます。
備考	ネーブルには、 ^{わせ} 早生品種の「 ^{おおしま} 大三島ネーブル」、 ^{せいけ} 「清家ネーブル」、 ^{しらやなぎ} 「 ^{おくて} 白柳 ^{もりた} ネーブル」、 ^{もりた} 晩生品種の「森田ネーブル」などがあります。愛媛県は、広島県、和歌山県、静岡県に次ぐネーブルの産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

- （1）「大三島ネーブル」は、1952年に愛媛県大三島町（現：今治市）の藤原義衛氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- （2）「清家ネーブル」は、1958年に愛媛県吉田町（現：宇和島市）の清家清太郎氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- （3）「白柳ネーブル」は、1932年に静岡県細江町（現：浜松市）の加茂吾郎氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。
- （4）「森田ネーブル」は、1948年に静岡県三ヶ日町（現：浜松市）の森田要氏の園地で発見された「ワシントンネーブル」の枝変わり品種です。